

壁紙の品質規格と安全性

リリカラの壁紙は、様々な安全規格の基準に適合しており、
F☆☆☆☆ですので、安心してご使用いただけます。

SV規格 Standard Value (壁紙製品標準規格)	JIS規格 (壁紙: JIS A 6921) Japanese Industrial Standards (日本工業規格)
快適・健康・安全に配慮した製品を供給することを目的として壁紙工業会によって制定された自主規格です。	日本の工業製品の品質安定を目的とした工業標準化法に基づき制定された国家規格です。

項目NO.	試験項目			SV規格	JIS規格
				規格値	規格値
1	退色性(号)			4以上	同左
2	摩擦色落ち度(級)	乾燥摩擦色落ち度	縦	4以上	同左
			横	4以上	同左
		湿潤摩擦色落ち度	縦	4以上	同左
			横	4以上	同左
3	隠ぺい性(級)			3以上	同左
4	施工性			浮き及びはがれがあってはならない	同左
5	湿潤強度(N/1.5cm)		縦	5.0以上	同左
			横	5.0以上	同左
6	ホルムアルデヒド放散量(mg/L)			0.2以下(※)	同左
7	重金属	砒素	(mg/kg)	3以下	—
		鉛	(mg/kg)	20以下	—
		カドミウム	(mg/kg)	3以下	—
		クロム	(mg/kg)	20以下	—
		水銀	(mg/kg)	2以下	—
8	塩化ビニルモノマー		(mg/kg)	0.1以下	—
9	残留VOC	TVOC	(μg/g)	100以下	—
		TEX芳香族	(μg/g)	10以下	—

(使用原材料)

10	安定剤	鉛、カドミウム、有機スズを含有する安定剤は使用しない。	—
11	可塑剤	沸点が300℃以上の難揮発性可塑剤を使用する。ただしDBPは使用しない。	—
12	発泡剤	フルオロカーボン類は使用しない。	—
13	溶剤	TEX(トルエン、キシレン、エチルベンゼン)は使用しない。	—

※ホルムアルデヒド放散量の0.2mg/L以下は建築基準法のF☆☆☆☆に適合しています。

- 上表は、各規格の規定内容を簡略化して一覧にしたものです。項目1～6は、両規格とも同じです。
SV規格は、JISの基本品質に、より安全性を考慮して重金属やVOCなどの規定が加えられています。
- JIS規格・SV規格の内容は、社会情勢の変化によって随時改定されます。
- SV規格の詳細については、壁紙工業会ホームページ(<http://www.svkikaku.gr.jp>)をご参照ください。

品番対照表

2019-2021 XR ▶ 2018-2020 BASE

2019 XR	2018 BASE	2019 XR	2018 BASE	2019 XR	2018 BASE
XR-301	LB-9104	XR-321	LB-9119	XR-336	LB-9156
XR-305	LB-9103	XR-322	LB-9118	XR-337	LB-9157
XR-306	LB-9105	XR-323	LB-9121	XR-338	LB-9138
XR-308	LB-9102	XR-324	LB-9130	XR-339	LB-9139
XR-309	LB-9101	XR-325	LB-9108	XR-340	LB-9140
XR-311	LB-9106	XR-326	LB-9122	XR-341	LB-9134
XR-312	LB-9107	XR-327	LB-9129	XR-342	LB-9135
XR-313	LB-9109	XR-328	LB-9146	XR-343	LB-9136
XR-314	LB-9110	XR-329	LB-9149	XR-344	LB-9144
XR-315	LB-9111	XR-330	LB-9147	XR-345	LB-9141
XR-316	LB-9112	XR-331	LB-9150	XR-346	LB-9162
XR-317	LB-9115	XR-332	LB-9151	XR-347	LB-9163
XR-318	LB-9116	XR-333	LB-9154	XR-348	LB-9167
XR-319	LB-9117	XR-334	LB-9145	XR-349	LB-9169
XR-320	LB-9120	XR-335	LB-9152	XR-350	LB-9170

防火性能・認定番号

当見本帳収録品は、全て同じ防火性能・認定番号です。

防火 種別	下地別の防火性能(直張り施工)				材料区分
	不燃材料	不燃石膏 ボード	準不燃材料	金属板	
2-3	準不燃 QM-0803	準不燃 QM-0803	準不燃 QM-0803	-	塩化ビニル系 樹脂壁紙

防火認定番号が変更となる場合があります。

日本壁装協会の「壁紙品質情報検索システム」で最新の情報をご確認ください。

日本壁装協会

検索

<https://www.wacoa.jp/Hekisou/>

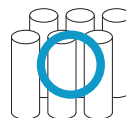
取り扱い上のご注意

商品選択上のご注意

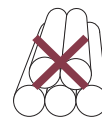
- 建築物の内装仕上げは、建築基準法により防火上の基準が定められており、建築物の用途や規模・構造に応じて防火材料の使用が義務づけられています。壁紙の防火性能は、下地基材や施工方法との組合せによって決まりますので、事前に必ずご確認ください。
- 製造ロットの違いにより、見本やサンプル帳と実際の商品が若干異なる場合があります。
- 改良その他の事情により、予告なく仕様変更を行なうことがあります。また、生産中止などにより供給不能となる場合があります。
- ビニル壁紙は、リピート表示のない商品でも基本的にある単位の同じ柄の繰り返しで出来ています。このため、見る角度や光の当たり方によって微妙な凹凸の繰り返しが目立つ場合があります。これは製法上の特徴であり、現在の技術では完全に防ぐことはできません。
- 表面の凹凸が少ない商品は、ジョイント部が比較的目立ちやすい傾向があります。塗装と異なり、つなぎ合わせて施工する壁紙である限り避けることのできない商品特性です。あらかじめご了承ください。

施工上のご注意

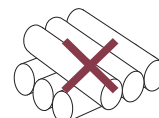
- ロット違いでは色差が生じる場合がありますので、同一ロット品を使用し、できれば一巻きの至近の箇所同士を張り合わせてください。
- 商品はタテ置きで保管してください。ヨコ積みや井桁積みは置き跡がつきやすく、光沢差やエンボスつぶれの原因となります。



タテ置き



ヨコ積み



井桁積み

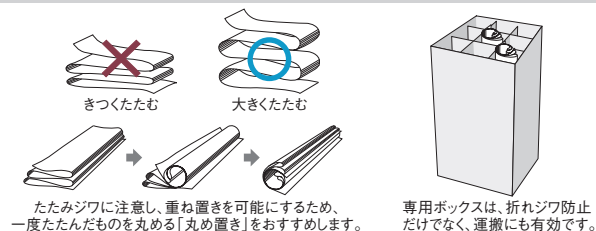
下地の調整

- 必ず下地と同色のパテをご使用ください。下地と異なる色のパテでは、施工後、下地の色が透けて見える場合があります。また、下地からの影響を防ぐために文字や汚れはきれいに落としてください。
- 施工後の不陸を防ぐため、下地は平滑に仕上げてください。また、ネジ・クギ類は施工後の変色を避けるため、突起を完全に沈め、サビ止めをしてください。
- ベンキ・コンクリート・モルタル・木質系下地の場合は、それぞれ専用のシーラーで必ず下地処理をしてください。特にベニヤなどの木質系下地に直接施工した場合、時間がたつとシミや変色の原因になります。シーラーは、接着不良や変色を防ぎ、リフォーム時に剥がしやすくします。
- コンクリートやモルタルなどの湿式下地、およびシーラー、パテを施した箇所は十分に乾燥（目安として水分率11%以下）してから施工を開始してください。乾燥が不十分な場合、壁紙の変色・剥がれ・カビが発生することがあります。
- オイルステイン、ニスなどを使用している下地や近接した場所への施工は避けてください。変色の原因になります。
- 張り替え時、下地にカビが発生している場合は、十分にカビを殺菌し、乾燥させてから施工してください。
- 張り替え時、下地面に残った裏打紙（残紙）は剥がしてから施工してください。残紙が浮いたまま施工すると目隙などの原因になります。

取り扱い上のご注意

施工糊と施工環境について

- 冬期など低温時には壁紙が硬くなり施工しにくくなる傾向があります。状況に合わせて接着剤の配合やうませ時間を調整したり、部屋を暖めるなどの配慮をお願いします。特に5℃以下の環境では糊の接着力が弱く、施工不良の原因になりますので、施工糊の注意事項を必ず守ってください。
- 壁紙の品種や室内環境に応じて、適切なオープンタイムを取ってください。施工を容易にするとともに、フクレの発生を防ぎます。また、壁紙をきつく折りたたんだり、湾曲部に荷重がかからないようにしてください。折れジワが発生し、元に戻らない場合があります。



張り付け

- 壁紙は必ず有効巾でご使用ください。重ねしろは有効巾に含まれません。有効巾を超えた使用は、左右色違い等の原因となります。
- 柄合わせを要する商品は、柄合わせマーク同士を目安に、柄を確認しながら施工してください。商品特性上、左右の柄合わせマーク位置の僅かなズレや柄合わせマークがない場合もありますので、ご了承ください。「無地貼可」表示は、柄合わせする方が美しく仕上がりますが、柄合わせしなくても柄のズレが比較的目的ににくい商品を意味しています。
- ジョイント位置は、端部同士で施工してください。両端部と中央部では、色差が生じる場合があります。また、窓の上下など一部だけを横張りをする、色違いが生じますので、必ず同じ方向で張ってください。
- 表面の凹凸が少ない商品はジョイント部が比較的目立ちやすい意匠特性があります。突き付け施工でジョイントが目立ちやすい場合は、重ね断ち施工をおすすめします。
- ジョイント部をカットする際は、目隙を防ぐため、必ずカッターの刃をまっすぐに入れてください。また、地べらを使った重ね切りは避け、定規をご使用ください。地べらを使うと切り口が斜めになり目隙の原因になります。石膏ボード下地の場合、カットの際は下敷きテープをご使用ください。カッターで石膏ボードの原紙まで切り込むと目隙の原因となります。また、ボードの継ぎ目付近ではジョイントしないでください。仕上がりに支障をきたすことがあります。
- 商品検査には十分配慮しておりますが、念のため三巾ほど施工した時点で問題のないことをご確認ください。明らかに製品に欠陥があると判断された場合には、ただちに作業を中断し当社までご連絡頂けますようお願い申し上げます。三巾以降相当量の作業を進行した場合、施工費賠償の請求、商品の返品等は原則としてお受けいたしかねますのでご了承ください。
- ボードやパネル下地の継ぎ目をまたいで壁紙を施工すると、入隅にフクレやよじれ・割れなどが発生する場合があります。これは、建物の構造上継ぎ目が振動の逃げ場になっているため、避けることは出来ません。できるだけ入隅で壁紙をジョイントすることをおすすめします。

養生

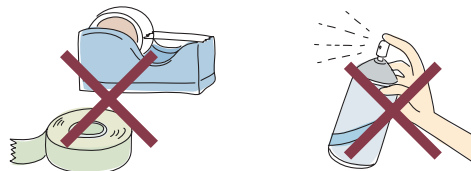
- 粘着性の強いマスキングテープの使用は避けてください。テープの粘着剤が壁紙に固着し、変色や汚れの原因になります。また、テープを剥がす時に壁紙表面が破損する恐れがあります。
- 壁紙の表面や廻り縁などに糊、汚れがつかないように注意して施工してください。拭き取る際は、きれいな水に頻繁に替えながら濡れスポンジで丁寧に拭き取り、更にきれいなタオルで拭き取ってください。特に濃色の壁紙の場合は、やさしく丁寧に拭き取った後、乾拭きせずに自然乾燥させてください。乾拭きで強くこすると傷や白化が起きやすくなります。また、糊が付着したまま放置すると、カビや変色の原因になります。

使用上のご注意

壁紙は色や柄などの意匠性を重視した化粧仕上げ材ですから、コンクリートなど他の建材と異なり、10～20年といった長期間に渡る維持は期待できません。したがって、ある程度の期間はメンテナンスを行ない、次いで張り替えるという使い方が、壁紙の価値を活かす最適な方法です。壁紙は室内のホコリや油汚れ・手垢などにより自然と徐々に汚れていきます。仕上がりの美しさを維持していただくためにも、使用上の注意とメンテナンスにご配慮ください。壁紙の耐用年数は、使い方次第で大きく異なってくるものです。

一般的注意事項

- 施工時の臭いが残っている場合がありますので、入居後一週間程度は十分に換気を行なってください。
- 直射日光が当たると、紫外線により色褪せがしやすくなります。部屋を使用していないときは、カーテンやブラインドを活用し、直射日光を避けるよう心がけてください。
- ストーブなど暖房器具の熱風が直接壁紙に当たらないようにしてください。また、キッチンのレンジやダウンライトのすぐ近くなど、高温になる場所への使用は避けてください。熱により壁紙が変形、変色することがあります。
- 粘着テープ(セロハンテープやガムテープなど)を壁紙に貼らないでください。テープの粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、粘着テープを剥がす時に壁紙を破損することがあります。
- スプレー式の薬品、殺虫剤、化粧品を壁紙に吹き付けないでください。壁紙が変色することがあります。
- 家具の塗料に含まれる色素やベニヤの色素により、壁紙が変色することがあります。家具と壁紙の間は空間の余裕をとってください。空間を設けることは、変色だけでなく結露やカビの予防にもなります。
- 室内空気の汚れ(ホコリ、タバコ、キッチンからの油煙など)は、壁紙を短時間で黄変させてしまいます。特に壁紙のジョイント部は、壁裏面との通気口となりやすく、壁紙表面と比較し空気の流れが集中するため汚れが目立つ場合があります。できるだけ室内の換気を心がけてください。



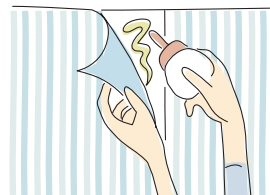
ホコリや汚れ

- ホコリは、時々ハタキをかけたり電気掃除機などで吸い取ってください。ホコリや汚れを放置しておきますと、湿気や油分を吸って取りにくくなりますので、長時間放置しないようにしてください。汚れには多種多様なものがあり、種類や放置時間によって除去できない場合があります。
- ビニル製の壁紙は、一般的に吸湿性や通気性がほとんどないので、シミやホコリには強く、手垢や油汚れには比較的弱いというのが特徴です。数ある壁紙の素材の中でもメンテナンス性に優れた部類にあり、軽い汚れなら水拭きや洗剤で落とすことができます。但し、汚れ防止壁紙と異なり、頑固な汚れは落とせません。
- 飲食物や調味料などの水汚れは、直ちにかたく絞ったスポンジやタオルで汚れを吸い取るように拭き取ってください。最初から強くこすると、汚れが染み込んだり広がる場合がありますので注意しましょう。落ちにくい場合には中性洗剤をご使用ください。出来るだけ早急に対処することが汚れを落とすコツです。拭き掃除が終わりましたら、必ず真水かぬるま湯で洗剤が残らないようきれいに拭き取ってください。洗剤の拭き残しは変色の原因になります。
- 強い洗剤やシンナーなどの有機溶剤は、変色や表面破損の原因になりますので使用しないでください。張り合わせ部分に水が入ると剥がれの原因になりますのでご注意ください。壁紙を拭く場合はあまり強くこすらないでください。壁紙表面が破損することがあります。

使用上のご注意

部分的な剥がれのメンテナンス

- 時間の経過と共に部分的な剥がれが生じる場合があります。きれいに補修するコツはできるだけ早く対処することです。剥がれてから時間が経ったものや、劣化して固くなったものは補修が困難になります。
- 剥がれが広がる前に下地の汚れを取り去り、木工用水性接着剤など強めの接着剤を壁紙裏面に塗り付け、十分圧着してください。
- 特に部屋のコーナー部、サッシや水のかかりやすい洗面台の周囲、通気の悪い箇所などは注意しておきましょう。このような場所には、あらかじめコークボンドで枠回りをコーキングしておけば、ある程度剥がれを防ぐことができます。



カビ

- カビは見た目の悪さの問題だけでなく、アレルギーや喘息など、病気の原因になることがありますので注意が必要です。カビの発生や繁殖を抑制する「防かび」壁紙もありますが、壁紙単体でカビの発生を防ぐことは不可能です。カビは住宅の構造や生活環境に大きく影響を受けます。常に換気を心がけ、通風を良くし、湿度の上昇をおさえてください。
- カビが大量に発生してしまった場合は、ハウスクリーニング会社などにご相談ください。

結露

- 結露や過度の湿気は、シミ・剥がれ・カビの原因となりますので、室内の換気や湿度調整を心がけてください。
- 常に換気を心がけ、発生した水蒸気を外へ排出してください。特に浴室や調理時の水蒸気などは換気扇を利用して排出してください。除湿機、吸湿剤などを活用し、余分な水蒸気を除去することも有効です。
- 家具裏などの隙間に余裕を取り、家全体の空気の流れをよくする工夫をしてください。
- 室内と外気の温度差が激しい冬は結露しやすい時期です。加湿器を使用した後は特に結露しやすくなります。換気や除湿に十分に注意しましょう。外に面した室内の壁が異常に結露する場合は、断熱材の不足や不備、建物自体の構造の問題が考えられますので、早めに対処しましょう。

